



「北上川の治水事業を学ぶ」

開催概要

- 開催日時 令和6年7月3日(水) 10:00～14:30
- 開催場所 あいぽーと(一関市狐禅寺)、大林水門
- 参加者 JICA(外国人14名、通訳、随行者)、一関第一高校1年生8名
- 講座目的 JICA課題別研修「中南米総合防災」

実施内容

今回の出前講座は、JICA関西が毎年開催している『2024年度課題別研修「中南米総合防災」』として6月18日から来日している中南米各国代表の皆様が、「あいぽーと」にお越しいただきました。JICAの皆様は昨年度に引き続き3回目の「あいぽーと」来館です。

当日は12カ国(ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、ドミニカ共和国、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコ、ニカラグア、パナマ、ペルー)14名の皆様に、当事務所職員が説明し、通訳の方がスペイン語で同時通訳していただきました。

参加された皆様からは、「流域治水に取り組んでいる企業はどんな取組をしているか」、「洪水時に遊水地が湛水する場合、農家にどのように注意喚起するのか」、「収穫に影響が出た場合の補償について」、「国と県の事業管轄や予算について」、「家屋移転の方法について」等沢山の質問をいただき、遊水地事業や流域治水への関心の高さがうかがえました。

また、今回は一関第一高校1年生8名との交流もあり、学生からは「日本より緩やかで長い川が多い外国の水害対策は」、「気候変動が日本よりも激しい国では、どのような防災対策をしているか」、「日本より降水量が多い中南米では、どのような洪水対策をし、地域の人々が水害に対してどのような意識を持っているか」など、積極的に質問していました。

今日は、海外の皆様、そして一関第一高校の学生にとって、大変有意義な一日となったようでした。ありがとうございました。『Gracias!』

実施状況



同時通訳
による説明



一関第一高
校との交流



大林水門
の前で記念
撮影